

四国大学大学院経営情報学研究科学位論文及び特定の課題についての審査基準

【修士論文】

- 1 研究テーマの適切性：
研究目的が明確で、当該分野の課題を踏まえ、学術的意義を有する適切な研究テーマが設定されていること。
- 2 研究方法の妥当性：
研究目的を達成するための研究方法が学術研究倫理の理解と遵守に基づいて妥当であり、指導教授の助言・指導を受けながら主体的に行われていること。
- 3 研究内容の独創性：
研究内容は、関連する研究動向の把握や文献調査が十分に行われ、関連研究との関係や相違を明確にして自らの研究の新規性・重要性を示す独創的なものであること。
- 4 論旨の妥当性
一貫した論旨展開により、明確かつ実証性を有した結論が提示されていること。
- 5 情報発信能力
論文の内容を明解にプレゼンテーションでき、質疑応答に的確に対応できること。

【特定の課題についての研究成果】

- 1 特定の課題：
作品、授業実践記録、データの専門的処理、フィールドワークによる調査研究、事例研究など。
- 2 対象学生：
希望した学生
ただし、特定課題研究を担当可とする教員の研究指導を受けることが前提。
- 3 成果と審査方法：
 - ・特定課題研究報告書の作成
原稿体裁 A4用紙 横書き 15 ページ以上 20 ページ以内
(日本語 1,200 字 [40 字×30 行] / ページ)
 - 最終試験 研究発表、学力確認、特定課題研究報告書の審査
特定研究課題研究を担当可とする博士前期課程研究指導教員が主査となり、他 2 名の副査とともに審査を実施。

※修士課程では、「修士論文」又は「特定の課題についての研究成果」が審査対象となる。

【博士論文】

- 1 研究テーマの適切性：
研究目的が明確で、当該分野の課題を踏まえ、学術的・社会的意義を有する適切な研究テーマが設定されていること。
- 2 研究方法の妥当性：
研究目的を達成するための研究方法が学術研究倫理の理解と遵守に基づいて妥当であり、指導教授の助言・指導を受けながら主体的に行われていること。
- 3 研究内容の独創性：
研究内容は、関連する研究動向の把握や文献調査が十分に行われ、関連研究との関係や相違を明確にして自らの研究の新規性・重要性を示す独創的なものであること。
- 4 論旨の妥当性
一貫した論旨展開により、明確かつ実証性を有した結論が提示されていること。
- 5 情報発信能力
論文の内容を明解にプレゼンテーションでき、質疑応答に的確に対応できることに加え、研究成果の全部または一部がすでに権威ある学会の学術論文として発表されていること。
- 6 自立した研究者としての識見・能力
当該研究分野やその他の研究分野における自立した研究者として活動が可能な、本研究科の博士学位取得者にふさわしい識見と能力を有していること。